令和五年度「家族の詩」入賞作品集

市長賞

私の太陽　岡崎中学校　三年　萩原　穂乃佳・・・1

教育長賞

お下がり　鷲津中学校　一年　小川　蒼空・・・2

明湖会長賞

初めての夏　白須賀中学校　三年　小池　梨心・・・3

優秀賞

「特別なただいま」　岡崎中学校　三年　大倉　隼人・・・4

僕のひいおばあちゃん　岡崎中学校　三年　伴　聡太朗・・・5

お母さん、ありがとう　鷲津中学校　一年　豊田　琉々芭・・・6

努力賞

私と家族　岡崎中学校　三年　穴井　さくら・・・7

口にだせないけれど　ありがとう　鷲津中学校　一年　木下　大和・・・8

私だけの「たからもの」　白須賀中学校　一年　小池　穂香・・・9

・・・・・・けどね　湖西中学校　一年　加藤　絢香・・・10

市長賞

私の太陽

岡崎中学校　三年　萩原　穂乃佳

私が何か嫌なことがあったとき
不安なことがあったとき
お母さんにはすぐに気づかれてしまう。
別に何か言ったわけではないし
いつも通りに振る舞ったつもり
それなのにお母さんには
すぐに気づかれてしまう。

「ただいま」の声。
いつもより少ない口数。
ふと、した瞬間に見え隠れする
浮かない表情。

自分では隠しているつもり
でもお母さんにはお見通し。
そう思うと少し気恥ずかしい。
でもそれは普段からよく私のことを
見てくれている証拠だから。

温かく優しく私の心を溶かしてくれる
曇った空を真っ青な空に変えてくれる
そんなお母さんは私の太陽。

いつも本当にありがとう。

教育長賞

お下がり

鷲津中学校　一年　小川　蒼空

母に父のお下がりをわたされた
少しダサくて、嫌だった
一度その服を着ると
父と母が
「やっと着れるようになった！」
と喜んでくれた
ダサいと思ったその服は
今では僕のお気に入りだ

明湖会長賞

初めての夏

白須賀中学校　三年　小池　梨心

兄であり友達でもあるジン
私が生まれる前から家に居た
小さい頃は一緒にすべりだいをすべった
海に行ってびしょびしょになった
走るのが速くて追いつけなかった
私が大きくなるとジンは小さくなっていく
ジンは走らなくなった
ジンは吠えなくなった
少し暑くなり始めた頃ジンは飛び立った
「ワン」と吠え力を抜いた
たくさんの感情が溢れ出た
今までに感じたことない気持ち
失って初めて気がついた
私が落ちこんでいるとき側にいてくれた
小さい頃からいつも一緒だった
ジンが居なくなった日の空は静かだった
白い蝶が飛んでいた
またどこかで逢えると私は想う

優秀賞

「特別なただいま」

岡崎中学校　三年　大倉　隼人

「ただいま」
そのただいまは、いつものとは違った
父が入院先から帰ってきたからだった

急に入院すると分かった時
いつ帰ってくるのか分からなくて
ずっと不安だった
とにかくすごく安心した

家族はいつも一緒にいると思って
小さい時から過ごしてきたから
とにかくすごく安心した

いろんな「ただいま」がある
父や母が僕の健康を願っているように
僕も家族の健康を願っている

優秀賞

僕のひいおばあちゃん

岡崎中学校三年　伴　聡太朗

大正から令和
四つの時代を生きて
何に思いを馳せ
何に希望を抱き
何に絶望してきたか
置いてきたものとつれてきたもの
百年の歴史に残ったものを
つむいでいく僕たちが

大正から令和
しわくちゃになった小さな手
この手を重ね合わせる
「大丈夫だから」
「安心してな」と
ふと笑うしわくちゃな顔
それを見てまた思う
約束しよう
つないでいく僕たちが

優秀賞

お母さん、ありがとう

鷲津中学校　一年　豊田　琉々芭

私は知ってるよ
毎日がんばっている　お母さんを
お母さんがたいへんなとこ、知ってるよ
お母さんが怒ってるとこ、知ってるよ
お母さんが泣いているとこ、知ってるよ
お母さんが喜んでいるとこ、知ってるよ
いつも喜んでくれて一緒に泣いてくれて
ありがとう
私は分かってるよ
毎日家事をしている　お母さんを
お母さんが服を干してくれてること
分かってるよ
お母さんが朝、夜ご飯作ってくれるの
分かってるよ
お母さんが服をたたんでくれるの
分かってるよ
お母さんがお風呂そうじしてくれるの
分かってるよ
はずかしくて「ありがとう」を
言えないけど
本当は感謝してる
いつもありがとう

努力賞

私と家族

岡崎中学校　三年　穴井　さくら

近すぎると、離れたくなる
話しすぎると、だまりたくなる
聞かれると、答えたくなくなる
言われると、にげたくなる
なぜだか時々むしゃくしゃする

でもそんな時、
そっと声をかけてくれる
そっと気にかけてくれる
くもった気持ちが晴れていく
なぜだか心が丸くなる

素直に言えないけれど「ありがとう」

努力賞

口にだせないけれど　ありがとう

鷲津中学校　一年　　木下　大和

口にだせないけれどいつもいつもありがとう
料理人がつくってくれたような
おいしい料理をつくってくれて
ありがとう
汚れた服や靴下を
なにもいわず洗ってくれて
ありがとう
ぼくたちがごはんをこぼしたり
あそんだときについた砂のせいで
家を汚してしまったときも
きれいにしてくれて
ありがとう
宿題をせずに遊びにいったときは
鬼みたいな顔になっていて
いやだったけど
ぼくのことを思って言ってくれるんだよね
口にだせないけれどいつもいつもありがとう

努力賞

私だけの「たからもの」

白須賀中学校　一年　小池　穂香

「家庭」はね、
「家族」はね、
いちばん身近にある「たからもの」なんだ

今日も楽しげな声が聞こえる
そんな家の中は暖かくてね
まるできらきら光る宝石のよう

よく、先生や大人は「この幸せを当たり前
と思ってはいけない。」という
もしかして、
この「楽しい」や「暖かい」は特別なの
みんな平等なものではないの
それなら、もっと大切にしていきたい
そう思うと、今度は明るい「ご飯だよ。」の声
とびかう私たちの会話が、おかずをもっと美味しくする

今日も楽しげな声が聞こえる
世界にひとつしかない幸せな家族の声が

世界にひとつしかない「たからもの」の声が

努力賞

・・・・・けどね

湖西中学校　一年　加藤　絢香

いつも帰るのおそいしさ、
いっつもよくわかんないことといってる
・・・・・けどね、
私たちのために働いてくれるのも、
私が悩んでるときに笑わせてくれるのもね、
全部、全部気づいてる。
それが優しさだってのも気づいてる。
でもねちょっぴりはずかしい
「ありがとう」を言うのがはずかしい
分かってくれるとうれしいな